

(様式第 10 号) (第 53 条関係)

施工状況等報告書

令和 3 年 1 月 1 9 日

長野県知事 阿 部 守 一 様

松本市長 臥 雲 義 尚 様

安曇野市長 宮 澤 宗 弘 様

池田町長 甕 聖 章 様

所在地 長野県安曇野市穂高北穂高 1589 番地 2

名 称 穂高広域施設組合

管理者 宮 澤 宗 弘

長野県環境影響評価条例第 32 条第 1 項の規定により、下記のとおり送付します。

記

対 象 事 業 の 名 称	穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業
報 告 対 象 期 間	令和 2 年(2020 年) 1 0 月 1 日から 令和 2 年(2020 年) 1 2 月 3 1 日まで
環境の保全のための措置の状況	詳細は別紙添付資料のとおり
対 象 事 業 の 実 施 状 況	詳細は別紙添付資料のとおり

(備考) 必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

－ 目 次 －

1. 環境の保全のための措置の状況

1-1 環境保全措置状況

1-2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

2. 対象事業の実施状況に係る工程表、写真

2-1 工程表

2-2 現況写真(10月,11月,12月)

2-3 主な工事写真

1. 環境の保全のための措置の状況

1-1_環境保全措置状況(1/2)

令和2年10月から12月までの間は、これまで報告した環境保全措置を継続して実施した。

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料		
				種類	実施内容	実施状況			
1 大気質	(1)工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導				
		対象事業実施区域	暖機運転(アイドリング)の低減	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理				
			工用出入り口の路面洗浄	低減	散水による路面洗浄の実施			散水により路面を洗浄した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
	(2)建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工用車両荷台のシート覆い	低減	工用車両荷台にシート覆いの設置	粉塵を飛散させるおそれがある工事車両の走行はなかった。	—		
			工用仮囲いの設置	低減	周囲に工用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			排出ガス対策型機械の使用	低減	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			建設機械稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
2 騒音	(1)工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導				
	(2)建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工用仮囲いの設置	低減	周囲に工用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
	(1)工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導				
(2)建設機械の稼働による影響			低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型機械の採用			低騒音型機械を採用し、振動の抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整			毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
(2)建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
		建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
		建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
		建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
3 振動	(1)工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導				
	(2)建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型機械の採用	低騒音型機械を採用し、振動の抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
(2)建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
		建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
		建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
		建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照			
4 水質	(1)建設工事中の土地造成、掘削、舗装工事・コンクリート工事による雨水への影響	対象事業実施区域	沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	浸透貯水池を設け、場内で浸透を行った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			雨水排水の濁りの監視	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—		
			凝集剤による土壌の沈殿促進	低減	放流水質が河川水質を悪化させる恐れがある場合は凝集剤による土壌の沈殿を行う				
			アルカリ排水中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する				
5 水象	(1)工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施			ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施				
			適切な掘削時期の検討	低減	湧水期に掘削を開始	水位が上がる夏季を避けて掘削を開始した。	—		
			湧水汲み上げの最小化	低減	湧水の汲み上げ量が少なくなるように、施工期間を短くする。	湧水の汲み上げ量が少なくなるように施工期間を4日短くした。	—		
			地下水位の監視	低減	地下水位の連続観測を行い、水位を確認しながら施工を行う。	観測井の地下水位が519.6m(湿地の水面標高)を下回らないよう連続監視し、顕著な地下水位の低下が起こらないよう管理した。	—		
6 土壌汚染	(1)工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照		
7 地盤沈下	(1)工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施				
8 地形・地質	(1)工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照		
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施				
			矢板等の設置による崩落防止	低減	掘削面の崩壊を防止する			ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削深さを小さくし、土留めを使用としない工法とした。	

【環境保全措置の種類】

回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

1-1_環境保全措置状況(2/2)

令和2年10月から12月までの間は、これまで報告した環境保全措置を継続して実施した。

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
				種類	実施内容	実施状況	
9 植 物	(1) 工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置	低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			生育地の保全	回避	できる限り生育地の改変を回避し、生育可能な状態を保全する	クマツヅラの生育地を自然緑地として残置し、生育地の改変を回避した施設配置とした。	2018年10月18日 施工状況等報告書参照
			個体の移植	代償	生育地の保全が困難な場合、個体の移植を実施	2020年10月に、草地環境を維持するための草刈りを実施した。6月に実施した試験播種後の生育状況の確認を10月に行った。	添付①、②
10 動 物	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	騒音発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			振動発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			生息地の保全	回避	できる限り生息地の改変を回避し、生息可能な状態を保全する	コウフオカモノアラガイの生息地を自然緑地として残置し、生息地の改変を回避した施設配置とした。	2018年10月18日 施工状況等報告書参照
			固体の移植	代償	直接影響を受ける種について、生息適地の調査と移植の実施	平成30年11月にヒメカメシの移植を実施。コウフオカモノアラガイは継続調査。	2019年1月25日 施工状況等報告書参照
11 生 態 系	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置	低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域へ散水を実施した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			騒音発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			振動発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼働を避けた。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			地区外流出抑制対策の実施	低減	河川側に側溝を設置する	河川側に側溝を設置した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	—
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	ブラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(スーパーラップルエルード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			12 触 れ 合 い 活 動 の 場	(1) 工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	搬入搬出時間の分散	低減
交通規則の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導					
(2) 建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事前仮囲いの設置		低減	周囲に工事前仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
		低騒音型・低振動型建設機械の使用		低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音振動の抑制を図った。	2019年4月26日 施工状況等報告書参照
13 廃 棄 物 等	(1) 工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	発生土を場内の埋め戻し等に再利用した。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
			コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	低減	コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照
現場での分別排出			低減	現場で可能な限り分別排出を行う	建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。	2019年7月18日 施工状況等報告書参照	

【環境保全措置の種類】
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
 代償: 代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について
 現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

添付資料①

■保全緑地の草地環境を維持するための草刈り



作業前の状況



作業後の状況



作業後の状況

＜アオガツリの播種後の状況確認結果 2＞

1. 実施内容

令和2年6月10日に実施したアオガツリの試験播種後の生育状況の確認を行った。
生育確認は、令和2年10月22日に実施した。

2. 確認結果

播種を行った10カ所について、生育状況を確認した結果、9カ所、計94株のアオガツリの生育が確認できた。

草丈は20cm程度であり、株もいずれも小さかったものの、確認できた株はいずれも結実していた。

生育状況（アオガツリ）

確認日 播種した箇所	令和2年10月22日
①	12株確認
②	15株確認
③	3株確認
④	4株確認
⑤	確認できず
⑥	12株確認
⑦	11株確認
⑧	16株確認
⑨	11株確認
⑩	10株確認

※確認した株は、全て結実していた

3. 考察

試験播種の結果、播種によって新規の場所に生育を促すことが可能であると確認できた。また、開花・結実が確認されていることから、継代的に生育していく可能性が認められる。

播種した箇所のうち③及び④は株数が少なく、⑤では生育しなかった。水分条件の異なる緩やかな斜面に線上に播種したが、⑤が最も低く水のたまりやすい条件であったことから、過湿な条件は生育に適さないものと判断された。

播種は緑地内の湿った砂礫質の場所で行ったが、確認された株がいずれも小さく、生育条件が必ずしも良好ではなかったと考えられる。環境影響評価時の現地調査では、多くは砂地の湿潤地で確認されたが、株数は少ないものの水田の畔や泥の溜まった側溝では大きな株に生長する傾向にあった。土壌条件の悪い場所でも生育が可能だが、土壌の条件が良好であれば大きく生長できると考えられる。

施設供用後に本播種を行う際には、水分条件及び土壌条件を十分考慮して実施する。

4. 実施後の予定

令和3年3月までに、次年度実施する施設供用後の環境保全措置としての播種の計画を作成する。

令和3年6月頃に播種を行い、秋季に生育状況の確認を行う予定である。

4. 確認状況



調査状況 (10月22日)



試験地の状況 (10月22日)



確認状況 (10月22日)



確認状況 (10月22日)

1-2 環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

対象	知事の意見 (工事中に関連する部分について、原文)	事業者の見解 (工事中に関連する部分について、原文)	作業位置	環境保全措置	環境保全措置		
					種類	実施内容	実施状況
全般	施設整備や管理運営について、安全性の確保や環境の保全に最大限配慮するとともに、稼働状況、モニタリング結果等の情報をわかりやすく積極的に公表し、地域住民の安全・安心の確保に努めること。	安全性の確保や環境の保全に最大限配慮して施設準備や管理運営を行います。工事中は、工事の進捗状況やモニタリング結果等を組合ホームページ等で公表します。共用開始後についても、稼働状況や検査結果を組合ホームページ等で公表し、地域の皆さんの安全・安心の確保に努めます。	—	—	—	ホームページで工事の進捗状況を公表します。	ホームページで工事の進捗状況を公表しています。
水象	地下水について、良好な水循環が行われるよう、水の浸透や蒸発散に関して適切な配慮がなされた施工計画を検討すること。	区域内の雨水排水は地下浸透を原則とし、また緑地は敷地面積に対して最低でも20%以上とすることで、蒸発散や地下浸透を妨げないよう十分に配慮します。	対象事業実施区域	水の蒸発散や地下浸透を妨げないように配慮	低減	敷地面積に対して緑地面積を20%以上確保し、水の蒸発散や地下浸透を妨げない計画とします。外構舗装工事を工事の終盤に実施し、工事中も水の蒸発散や地下浸透を妨げないようにします。	実施設計で緑地面積を20%以上確保しており、計画に沿って施工しています。外構舗装工事を工事の終盤に実施する計画工程とし、計画に沿って施工しています。
水象	事業実施区域は地下水水位が高いことから、現状想定される最大の環境影響を踏まえた上で、最深部の掘削について、地下水水位が安定した濁水期に実施すること。	地下水への対策として、ブラットホームを3階に設けるなどのできる限り掘削深度を小さくする配慮を行います。また掘削時期については、地下水水位が安定した濁水期を開始するよう計画します。	対象事業実施区域	掘削深度を小さくする濁水期に掘削を開始	低減	ブラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画とします。掘削は地下水が安定した濁水期に実施します。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施します。	ブラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画としています。掘削は地下水が安定した濁水期に開始しました。地盤改良(スーパーラップルエルニード工法)により排水にたよらない掘削方法を実施しました。
動物	コウフオカモノアラガイについて、できる限り生息地の改変を回避すること。改変を回避できない場合は、類似した生態のカタママイマイの生息地に移殖を行うことを検討すること。	コウフオカモノアラガイについては、生息地の改変を回避するよう、施設配置計画及び工事計画を検討します。どうしても回避できない場合は、類似した生態のカタママイマイの生息地を参考に、現地調査を行った上で移殖適地を検討し、移殖を行います。	対象事業実施区域	生息地の改変回避または移殖	低減	緑地を計画し、コウフオカモノアラガイの生息地の改変を回避する施設配置計画とします。	コウフオカモノアラガイの生息地を緑地として残置する施設計画とし、残置部分の立ち入り禁止措置をして施工しています。
景観	事業実施区域は松本・安曇野方面と大町白馬方面を結ぶ幹線となる道路に接しており、道路の屈曲部にあることから視認性が極めて高い。それを踏まえて、施設の設計に当たっては、建物と煙突の形状・意匠・色彩などに十分配慮すること。	幹線道路や周辺の道路、あづみ野ランドからの景観を考慮して、建物と煙突の形状・意匠及び色彩などに十分配慮した設計を行います。	対象事業実施区域	形状・意匠・色彩に配慮	低減	曲面形状の屋根を採用することで、幹線道路や周辺道路から見たときに、あづみ野ランド等の周辺施設と調和したデザインとしました。また、あづみ野ランドの利用者から見える壁面を曲面形状とするとともに、煙突を最も遠くに配置することで、あづみ野ランドから見たときの圧迫感を低減する計画としました。	左記の通り施設計画を行い、計画に沿って施工をしています。

【環境保全措置の種類】
 回避: 全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
 最小化: 実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。
 低減: 継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

2. 対象事業の実施状況に係る工程表、写真

		2018年度												2019年度												2020年度												備考			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		1	2	3
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
■全体スケジュール		★ 契約		設計・建設																		引渡し★			工事完了予定日:令和3年2月28日 共用開始予定日:令和3年3月1日																
■ 建 築 工 事	準備工事	→										▽2/21起工式																													
	地盤改良・造成工事											→																													
	建築工事											→		→																											
	外構工事											→		→																											
■プラント工事														→																											
■試運転																																→									

2-2_現況写真



10月



11月



12月

2-3_主な工事写真



10月 工場棟3階プラットフォーム 建築工事



11月 工場棟 建築工事

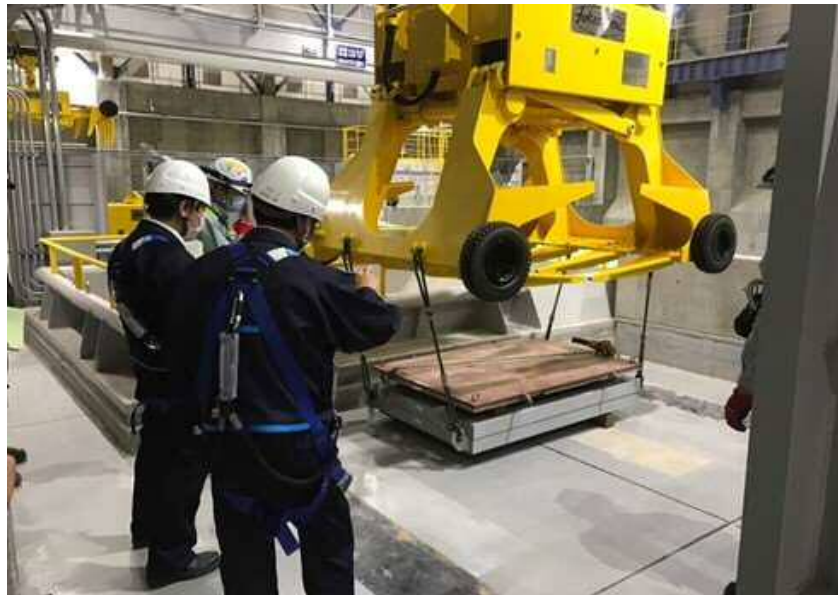


12月 計量棟・油脂庫・助燃油ポンプ室 建築工事

2-3_主な工事写真



10月 プラント工事 耐火物施工完了



11月 プラント工事 ごみクレーン落成検査



12月 プラント工事 ごみ受入れ状況